



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

2. モモ「清水白桃」における側枝の基部径に基づいた簡易な着果管理指標

[要約]

「清水白桃」では、核割れなどを軽減するため適期の適正な着果管理が重要であるが、既存の管理指標は葉数の測定などを伴い繁雑である。そこで、予備摘果時の側枝の基部径と収穫時の葉数との関係を解析することで、簡便に判定できる着果管理指標を作成した。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

モモは果実の肥大速度が非常に速く、特に硬核期以降の急速な果実肥大は核割れなど様々な生理障害を助長するため、適期の適正な着果管理が重要である。しかし、単位面積や樹齢など既存の基準を用いると着果数のばらつきが大きくなる。また、結果枝の長さや葉数を基準とした着果数の目安は正確であるものの、測定が繁雑である。そこで、生産現場で判断可能な簡便な側枝単位での着果管理指標を作成する。

[成果の内容・特徴]

1. 予備摘果時の側枝の基部径と収穫時の葉数との間には強い相関が認められる（図1）。
2. 予備摘果時の側枝の基部径が10mmの場合では、収穫時の葉数が約100枚、側枝径が25mmの場合では収穫時の葉数が約1,000枚になると推定される（表1）。
3. 予備摘果時に側枝の基部径が20mm程度の側枝の場合、収穫時に最適な葉果比は100枚/果程度であるため、その側枝上には10～12果残すように予備摘果するとよい（表1、図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 側枝の基部径について、半分以上の太さの部位で強い切り返しを行っている側枝では、推定葉数のずれが大きいため、本成果の基準をそのまま用いることはできない。
2. 側枝の基部径が35mm以上になる場合には、側枝をより細分化して利用する。
3. 「清水白桃」における中庸な樹勢で成熟時の最適な葉果比を約100枚/果として計算した着果管理指標である。他品種でも適用可能であるが、目的とする葉果比が異なる場合は、それぞれの着果程度に合わせた係数を乗じて対応する。
4. 「清水白桃」では、硬核期までに最終着果量の1.5倍程度まで仕上げ摘果し、生理的落果終了後に最終着果量になるように修正摘果する。



[具体的データ]

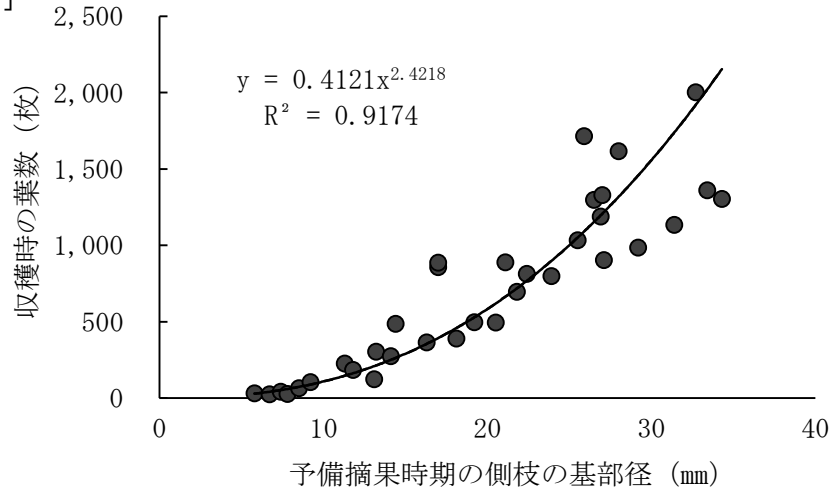


図1 「清水白桃」における予備摘果時の側枝の基部径と収穫時期の葉数との関係（n=32）

表1 「清水白桃」における予備摘果時の側枝の基部径を基準とした収穫時の葉数及び着果程度の目安

予備摘果時の側枝の基部径 (mm)	収穫時期の推定葉数 ^z (枚)	着果数 (果)	
		予備摘果時 ^y	修正摘果後の着果数 ^x
10	109	2	1
15	291	6	3
20	583	10~12	5~6
25	1001	20~22	10~11
30	1557	30~32	15~16

^z 葉数は次式により算出： $y=0.4121 \times (\text{側枝の基部径 (mm)})^{2.4218}$

^y 最終着果量の約2.0倍とした

^x 1果当たりの葉数を約100枚とした

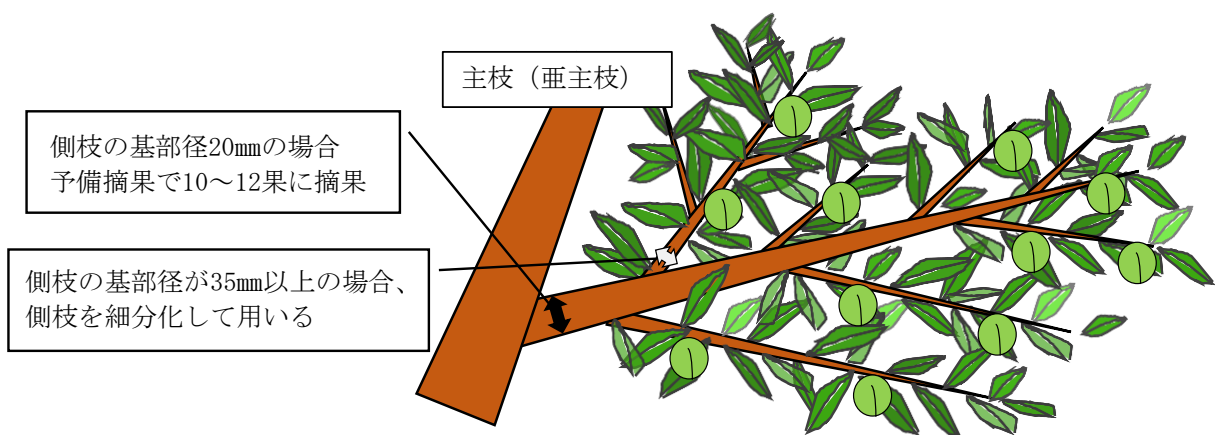


図2 摘果基準に基づく予備摘果時のイメージ

[その他]

研究課題名：新樹形によるモモの低樹高・軽労化栽培技術の開発

予算区分・研究期間：県単・令2～6年度

研究担当者：樋野友之、佐々木郁哉、吉村諒介、鶴木悠治郎、河村美菜子